

「効率的・効果的な防災情報発信に関する基本方針(案)」

に関する意見募集の実施結果について

1 概要

本市では、同報系防災行政無線をはじめ、防災ポータルサイトや防災アプリ、登録制メール、各種 SNS 媒体等を活用して、防災情報の配信を行っています。

一方で、各種情報伝達手段の維持管理や整備には多くの費用を要することから、民間企業のノウハウ等も活用しながら、効率性を踏まえた伝達手段の多重化や費用面の最適化を図っていく必要があります。

こうした状況を踏まえ、既存の伝達手段の有効活用を前提として、地域特性や各伝達手段の特徴、整備費用等を考慮し、今後の効率的・効果的かつ持続可能な防災情報発信に向けて基本方針(案)を取りまとめ、市民の皆様からの御意見を募集しました。

その結果、8通 13 件の御意見をいただきましたので、その内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表します。

2 意見募集の概要

題名	「効率的・効果的な防災情報発信に関する基本方針(案)」に関する意見募集について
意見の募集期間	令和5年11月28日(火)から令和5年12月27日(水)まで
意見の提出方法	電子メール(フォーム)、FAX、郵送、持参
募集の周知方法	・川崎市ホームページ ・かわさき情報プラザ(川崎市役所本庁舎2階) ・各区役所(市政閲覧コーナー) ・危機管理本部危機管理部(川崎市役所本庁舎6階)
結果の公表方法	・川崎市ホームページ ・かわさき情報プラザ(川崎市役所本庁舎2階) ・各区役所(市政閲覧コーナー) ・危機管理本部危機管理部(川崎市役所本庁舎6階)

3 結果の概要

意見提出数(意見総数)		8通(13件)
内 訳	電子メール(フォーム)	7通(12件)
	FAX	0通(0件)
	郵送	0通(0件)
	持参	1通(1件)

4 意見の内容と対応

意見募集の結果、防災行政無線の有効性に関する確認や防災ラジオの導入に係る要望、その他図表の補足説明を求める意見など、主に趣旨が案に沿ったものや要望、今後の参考とするものであったため、図表の補足説明等の修正を行った上で、案のとおり効率的・効果的な防災情報発信に関する基本方針を策定し、関連する取組を進めることとします。

【意見に対する対応区分】

- A：御意見を踏まえ、案に反映したもの
- B：御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見の趣旨を踏まえ、取組を推進するもの
- C：今後の取組を進めていく上で参考とするもの
- D：案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明・確認するもの
- E：その他

【意見の件数と対応区分】

[件]

項目	A	B	C	D	E	計
(1) 防災情報伝達手段の現状及び課題に関すること	2					2
(2) 基本方針(基本的な考え方)に関すること				3		3
(3) 基本方針に基づく主な取組の方向性に関すること		2	4	2		8
合計	2	2	4	5		13

5 具体的な意見の内容と市の考え方

(1) 防災情報伝達手段の現状及び課題に関すること(2件)

No.	意見の要旨	市の考え方	対応区分
1	本編の4ページ表1について、緊急速報メールの配信項目には、特別警報が加わっていると思う。	御意見のとおり、令和4年12月から「気象等に関する特別警報」が追加されたことを確認しましたので、次のとおり表1「緊急速報メールの配信項目」を修正いたしました。 (P4 表1) <u>4 気象等に関する特別警報(市町村)</u>	A
2	本編の8ページ表3について、伝達障害リスクへの耐性等のうち、「荒天等」と「被災リスク」は文字数の関係でカットしているようだが、意味まで読み取れないので説明を加えた方が良くと思う。	御意見を踏まえ、防災情報等に係る各伝達手段の特徴をより丁寧に説明するため、次のとおり表3「防災情報等に係る各伝達手段の特徴」の下段に補足説明を追記いたしました。 (P8 表3下段) ※1 <u>荒天等:荒天等による騒音の耐性</u> ※2 <u>被災リスク:主要機器(送信局等)の被災リスクの低さ</u>	A

(2) 基本方針(基本的な考え方)に関すること(3件)

No.	意見の要旨	市の考え方	対応区分
1	<p>屋外スピーカーからの放送は何を言っているのかよく分からないため、有効性に疑問を感じる。</p> <p>(同趣旨他1件)</p>	<p>防災行政無線につきましては、音声による伝達を中心となる性質上、漏れなく地域に聞こえるようにするには限界があると認識しております。</p> <p>一方で、自営の通信網を構築しているため、^{ふくそう}輻輳(通信上の混雑)のリスクが低く、速報性に優れた PUSH 型の手段のひとつとして有効であると考えております。</p>	D
2	<p>川崎市は特別市を目指しており、二重行政による経費削減のほか、「県を通さず国と直接やり取りすることで、新型コロナウイルス感染症対策や災害対策もニーズに沿った対応が可能になります。」と主張している。</p> <p>基本方針の1番目には「災害時における情報伝達は命を守るための「きっかけ(気づき)」を与えるもの」と記載されており、市民の能動的行動が必要であることに異論はないが、将来的に特別市を目指している川崎市として、あまりに心許ない悠長な方針と感じる。</p>	<p>災害発生時には、自治体は避難情報を地域に伝達する責務を有することから、本市では、防災行政無線をはじめ、メールニュースや防災ポータルサイト、各種 SNS の活用など、伝達手段の多重化を図っております。</p> <p>一方で、防災情報の伝達手段を整備するだけでは、災害時に情報を有効に活用することは難しいため、市民自らが判断し、主体的に避難行動をとることも重要と考えております。</p> <p>こうした状況や各伝達手段に係る課題等を踏まえるとともに、効率的・効果的かつ持続可能な防災情報発信を実施していくため、基本的な考え方を整理し、「気づきを与えること」・「詳細を伝えること」・「PUSH 型・PULL 型を補完すること」・「市民意識の向上を図ること」の4項目を基本方針としてお示ししたもので、関係局区と連携を図りながら関連する取組を推進してまいります。</p>	D

(3) 基本方針に基づく主な取組の方向性に関すること(8件)

No.	意見の要旨	市の考え方	対応区分
1	<p>スマートフォンが一番身近なツールなので、防災アプリが便利になることは良いと思う。</p>	<p>災害時において命を守るためのきっかけとなるよう、各伝達手段の特徴や役割に応じた情報発信が重要となりますことから、「速報性に優れた PUSH 型の手段」と「詳細情報の発信に優れた PULL 型の手段」を組み合わせ、効率的・効果的な運用を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>身近にあるスマートフォン等からの情報取得につきましても、有効な手段のひとつとな</p>	B

		りますことから、「4(1) PUSH型・PULL型の伝達手段に関する取組の方向性」に記載のとおり、防災アプリやメールニュース等の更なる機能拡充や運用強化に取り組んでまいります。	
2	<p>国際的な緊張状態は継続しており、サイバー攻撃のリスクは相変わらず高い状況になる。</p> <p>また、自然災害が生じた場合、市民によるアクセス集中で通信負荷が高くなるが、そのタイミングでサイバー攻撃が生じた際には、webを介した連絡手段は全て無力であることも想定される。</p> <p>無線通信は最低限の設備だと思われるが、かわさき防災アプリはweb通信が停止した状態であっても、無線放送と同じ情報を提供できるのか。</p>	<p>災害時には、通信障害やウェブサイトへのアクセス急増が想定されることから、トラフィック対策など、防災ポータルサイト等の強化に向けて引き続き検討を進めるとともに、サイバー攻撃なども踏まえ、セキュリティの強化に取り組んでまいります。</p> <p>また、大規模災害時には、防災行政無線を含め機器の故障や、長期停電・通信障害等によるインターネットを活用する手段への影響などが考えられるため、その状況に応じて使用できる最適な手段や復旧に要する時間等を考慮しながら、必要となる情報の発信に努めてまいります。</p>	C
3	<p>基本方針では屋外スピーカーに関する対策が消極的であり、民間や市独自のアプリケーションを推奨している。これらは便利である一方、あくまでオプションに過ぎないため、市政の負担が重いことは十分に理解しているが、優先順位として、屋外スピーカーに対する設備投資を行った後に、アプリケーションなどに力を割くべきと考える。</p>	<p>屋外スピーカーにつきましては、市指定の避難所及び広域避難場所を基本に整備を進めており、令和7年度までに当該避難所等への設置が完了することから、伝達手段の特徴や整備費用等を踏まえ、増設については原則終了とするものとなります。</p> <p>なお、引き続き有効に活用できるよう、長期使用に向けて予防保全的な取組を強化するとともに、スピーカー自体の更新等が必要となった際には、高性能型への切替などを検討してまいります。</p>	D
4	<p>かわさきFMの放送区域が広がり、川崎市内ならどこでも容易に視聴できるよう、特に難聴エリアと予想される麻生区と多摩区には重点的に対策を行ってほしい。</p> <p>(同趣旨他1件)</p>	<p>かわさきFMを活用した防災ラジオの導入に向けましては、受信電界強度調査を実施し、難聴エリアと想定される市北部の地域においても、概ね屋外では受信可能な電界強度があることを確認しております。</p> <p>地形や建物の状況等の影響も受けるため、市内全ての地域において同FM放送を視聴できるようにすることは難しいものと考えておりますが、聴取レベル調査の結果も踏まえながら、防災ラジオのアンテナ対策など、可聴域の改善に向けて取り組んでまいります。</p>	C
5	<p>防災ラジオを無償で配ってほしい。</p>	<p>防災情報につきましては、防災アプリやメールニュース、各種SNSなど、インターネット等を活用し、伝達手段の多重化に取り組ん</p>	D

		<p>でまいりましたが、ネット環境からの情報取得に不慣れな人への取組として、新たに防災ラジオの導入に向けて準備を進めております。</p> <p>また、防災ラジオの無償貸与や有償販売など、具体の制度につきましては、導入目的等を踏まえながら検討を進めてまいります。</p>	
6	<p>伝達手段にはそれぞれ特徴があつて、万能ではない以上、役割に応じて情報発信を行うという考え方については理解できる。</p> <p>ただし、多くの人々が考え方を共有していなければ効果的に機能しないため、自発的な意識向上に期待するだけでなく、周知や広報、支援等を行う必要がある。</p>	<p>災害時の正しい避難行動へと繋げていくためには、自らが必要な情報を取りに行く姿勢も重要となりますので、「4 (4) 情報発信等に関する取組の方向性」に記載のとおり、防災情報の取得方法について分かりやすい見える化を図るとともに、主体的な情報収集の促進に向けて世代に応じた広報を展開し、PUSH 型の伝達を契機に様々な PULL 型の伝達手段から詳細な情報を取得していただけるよう、啓発や支援を行ってまいります。</p>	B
7	<p>スマートフォンやパソコンに不慣れな人もいるかもしれないが、様々な面で IT 化が進められているので、慣れるための努力も必要だと思う。</p>	<p>防災情報につきましては、防災ポータルサイトや防災アプリ、メールニュースなど、インターネット等を活用し、多くの項目を発信しております。</p> <p>こうした情報を有効に活用し、災害時の正しい避難行動へと繋げていくためには、自らが必要な情報を取りに行く姿勢も重要となりますので、防災情報の取得方法について分かりやすい見える化を図るとともに、インターネット等に不慣れな人も御活用いただけるよう、必要な取組を検討してまいります。</p>	C